

令和8年度 幌北小学校ひまわり分校「学ぶ力」育成プログラム

学校番号：22081

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

「学ぶ力」	
成果	課題
<p>◇退院時の児童アンケートの結果から、「治療をしながら自分にできることを進め、一生懸命、学習に取り組んでいる」という実態がある。</p> <p>◇児童・保護者からの要望が多い「可能な限り学習の遅れを取り戻し、安心して復学できること」を目標にしている。「自主的な活動」に関しては、小中合同の集会活動や合同授業を通して、児童の思いや考えを反映できるようにしている。</p> <p>◇個別指導が主のため学習内容や取組み方などを相談しながら進めている。また、学習の成果を一緒に確認しながら、伸びを実感できるような関わりを意識している。</p>	<p>◇3学年の複式学級、入院期間、使用教科書、学習進度の違い、治療による学習時数の減少などの理由から、「協働的な学び」の機会が少ないため、札幌市の共通指標 14.「人の意見を聞いて自分の考えを見直す」は達成することが難しい。そのため、分校全体で合同授業（体育・音楽・図工・自立活動等）の機会を生かして達成していきたい。</p> <p>◇「自主的な活動」に関しては、「ひまわり集会」を主に取り組んでいる。子どもたちの思いを生かした活動になっているが、札幌市の共通指標15「振り返りを通して、伸びや成長を感じる」というところまで高めていきたい。</p>
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題	
<p>◇思いもよらない入院生活により、子どもたちの心は複雑である。自己や他者のよさに気持ちを向けることが難しい時期もあるが、その中でも友達を大切にしたり、周りへの感謝の気持ちをもって生活したりする面も見られる。常に、子どもたちの心に寄り添い、心の状態を見極めながら、前向きになれるような温かい声かけや子どもが「そのままの自分を受け入れてもらえる」と感じられるような関わりを継続していく。</p>	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

体調を考えながら 少しずつでも学びを進めていく力

取組	課題探究的な学習の推進 に向けて	自主的な活動の充実 に向けて
	<p>(1) 研究の視点『分校における「個の学び」と「協働的な学び」それぞれのよさを生かして』の実現</p> <p>a 個に応じた指導方法の工夫→<u>個別の目標、目指す学びの姿、個の理解を深める方法</u></p> <p>b 協働的な学びの工夫→<u>全体の目標と協働的な学びを通して個人に見られた姿の共有</u></p> <p>c 教材、教具の工夫→ICTの活用、プリントの活用、動画の利用</p> <p>d 授業計画の工夫→他教科と合わせて、<u>個に応じた単元計画</u></p> <p>e 教師の関わり→<u>体調面、個別学習、小中合同授業、複数学年への対応</u></p> <p>(2) AARサイクルの視点から</p> <p>→子どもが課題を自分ごととして捉える（上記①、④）…イントロダクション</p> <p>→子どもが自己選択・自己決定できるような支援（上記③、④）…個別探究・協働探究</p> <p>→自らの学びの成果を振り返る（上記①、②、⑤）…リフレクション</p>	<p>①治療の状況にもよるが、大きな目標を立てた活動を行ったり、そのための時間を保障したりすることが難しい。</p> <p>＜「プラスのまほう」をもとにして＞</p> <p>→小さな「やってみよう」を生かせる集会活動や総合的な学習の実施</p> <p>→「やってみてよかった」「自分らしさを発揮できた」と達成感が感じられる声かけ</p> <p>→「自分が役割を果たすことができた」と思えるような活動の構成</p> <p>→「みんなで頑張った」「人と一緒に活動できてよかった」と実感できる<u>人との関わり合い</u></p>
「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICTの活用について		
<p>◇(1)a,c,d に関して、体調に合わせて学習を進めるために役立てている。短い時間で単元を終わらせなければならない場合が多く、動画を利用したり、学習の成果を記録したりするなど個に応じて利用する。</p> <p>◇(1)b,e に関して、少人数により多様な考えに触れる機会が少ないため、状況に応じて過去の児童の資料などを参考に学習を進める。</p>		

<本プログラムの実行に向けて>

